

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富南小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

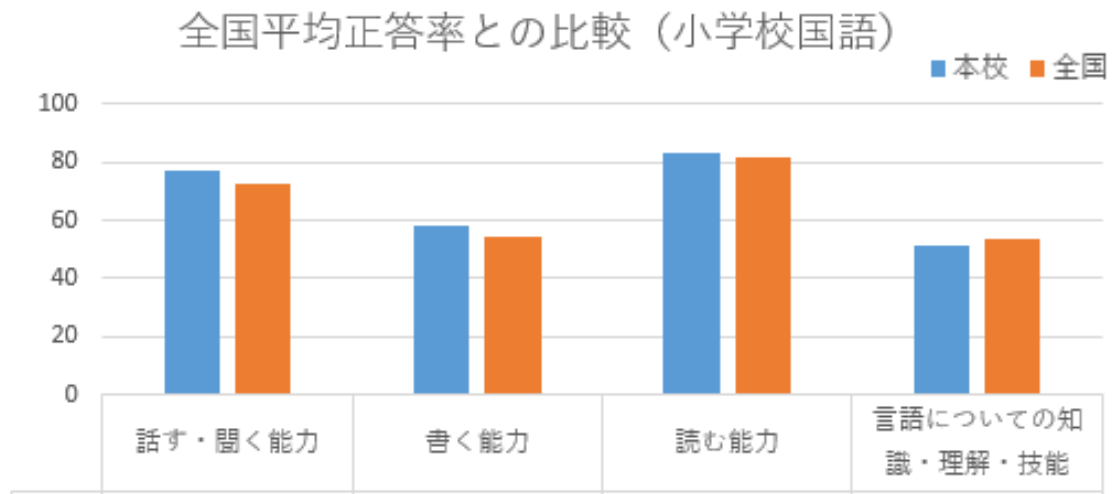
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果



4領域のうち3領域で全国平均正答率を上回った。分布の割合についてもほぼ全国の平均と同様な分布となっている。無回答率をみると全問題で全国平均よりも低かった。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「言語についての知識・理解・技能」に課題が見られた。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域で根幹をなすのが言葉の力である。「語彙」や「文や文章」にかかわる言葉の力を育むためにも、小単元で行われている漢字の学習や文や文章に関する学習で身に付けたことを使いこなす場を意識することが必要である。

成果としては、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」、3つの観点ともに全国平均を上回っている。これは朝の時間や、授業で取り組んできた聴き合い活動の成果が表れてきたと考えられる。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 引き続き、落ち着いた学習態度の確立を図ります。学習前の道具・心の準備や学習中に私語をしないことなどを心がけ、集中できる学習環境づくりをします。
- 授業の中で、考えを表現し聴き合う活動を通して、進んで考え、共に学び合う場を設定し、理解力を高めるとともに表現力・思考力の育成を目指します。
- 同音異義語に注意して、漢字を文中で正しく使う指導を工夫します。

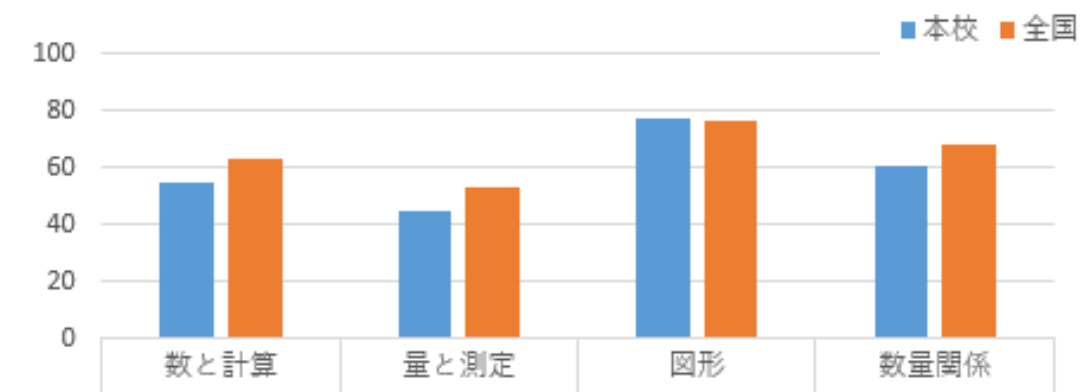
【ご家庭では】

- 音読は基本です。音読を毎日聞いてあげましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠な技能です。
- お子さんと会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話しましょう。共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流しましょう。
- 活字を読む力や資料を読み解く力は、国語科のみならず将来に渡り生きてくる力となります。いろいろな本を読むことはもちろんですが、新聞記事に慣れ親しむことで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

2 算数

(1) 結果

全国平均正答率との比較（小学校算数）



「数と計算」「量と測定」「数量関係」において全国平均を下回る結果となった。「図形」の領域だけは全国平均を上回っている。

問題形式ごとの正答率を見てみると、選択肢から選ぶ問題が 72.4%に対して、理由や方法を記述する問題は 36.9% (全国 -10.5) で、自己の考えを筋道立てて適切な記述ができていない傾向が見られた。

(2) 成果と課題

「図形」領域は本校の強みとして現れている。

グラフの基本的な読み方については理解できているが、一方で、複数のグラフを関連付けて読み取ることに課題が見られた。また、計算すること自体はできているが、生活場面に結びつけた数式の利用となると正答率が大きく下がっている。

数的事象を説明することにも課題が見られた。説明内容が不足していたり、条件を満たしていなかったりする傾向が顕著に見られる。問題を正確に読み取る力にも課題がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 式から答えを出す一方向だけではなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、言葉を行き来させるようにします。
- 聴き合い活動を取り入れ、他者の考えを読み解き、筋道を立てて説明する力を付ける事を目指します。
- 学習の振り返りの時間を設けることで、より深い理解に導き、学んだことを生活や次の学習に活用しようとする態度を育てます。

【ご家庭では】

- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、解くのにどれくらい時間がかかっているのか、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通しましょう。そしてお子さんにたくさん励ましや称賛の言葉をかけましょう。
- 算数好きにするには、「便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせましょう。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし数えでかけ算」「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で割合」など、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	90.5	88.7
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	40.5	38.9
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	73.8	58.7
将来の夢や目標を持っていますか。	71.4	65.9
人が困っているときは、進んで助けていますか。	57.1	40.4
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	76.2	74.7

朝食・起床・就寝については全国平均を上回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできているとすることができる。これは家庭の協力なしにはできないことであり、保護者の皆様に感謝します。

挑戦心や規範意識についても肯定的な回答をした本校の児童は全国平均よりも良好な結果が出ていた。また、本校の教育目標にも掲げている『夢』についても高い数値となっている。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	31.0	33.1
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。 「3時間以上」	16.7	12.4
「2時間以上、3時間より少ない」	7.1	16.9
「1時間以上、2時間より少ない」	40.5	36.8
「30分以上、1時間より少ない」	21.4	24.1
「30分より少ない」	11.9	7.6
「全くしない」	2.4	2.3

家庭学習については「3時間以上」している子供は全国平均よりも多い割合を示している。しかし次のカテゴリーである「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童が少ないことから、これは学習塾等へ通っている児童の割合と推測される。また、30分より少ないと回答した児童が全国平均よりも4.3ポイント多かった。中には全く家庭学習をしていない児童もいた。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきたい。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習（自学）についても2年生以上で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。
- 始業前（8：10～8：15）の朝の読書を推奨しています。効果が少しずつ現れているので、今後も継続していきます。
- 家庭学習チェック週間を中学校の試験期間中に行い、小中で共に学習に向かう意欲の向上を図ります。

【ご家庭では】

- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや自主学習の説明を参考に、家庭学習の様子を振り返り、家庭学習の充実を図りましょう。
- お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まると思います。
- テレビやゲームについては、ご家庭で約束事を決め、適度な時間利用させましょう。